

全国ネット通信

「世界一幸せな島」宣言をした海士町の挑戦

株式会社クレアン 代表取締役
(NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 事務局長) **蘭田 綾子**



■住民参加型のまちづくり計画

海士(あま)町は、島根半島の沖、日本海に浮かぶ隠岐の島の一つで人口約2400人の半農半漁の自然豊かな町。けれども、急激に進む超少子高齢化や過疎化、そして介護や福祉問題を抱える日本社会の縮図です。そこで、民間企業出身の山内道雄町長を中心に、さまざまな起業家支援や産業育成策を打ち出したことから、やる気のある若手が400名以上も全国から集まり、町起こしの成功例としても知られています。

2009年に「島の幸福論～海士ならではの笑顔の追及」という総合振興計画も掲げ、「世界一幸せな島」の実現に向けて、町民主体で取り組み始めました。素案作成段階から、役場の若手職員を加えた約50名による「海士町の未来をつくる会」を立ち上げ、「ひと」「産業」「暮らし」「環境」の4つの視点で議論を重ね、最終的には、24の「住民によるまちづくり具体案」を作成。特に「ひと」の視点では「心が満たされる島」という理念を据え、「人間力を育む教育の推進」として、人間力マップをベースにした教育が島の小中高校で実践されています。



図1
「持続可能な地域社会をつくる」人間力マップ

現在の海士町は、米や野菜、魚などの食料は島内で自給でき、海士にしかない希少種の植物も生息する自然豊かな島。けれども、一方では、海や山のゴミ問題や竹の浸食による問題、そしてエネルギーを安定的に供給し続けられるかどうかなどの不安がありました。そこで、「世界一幸せな島」のためには、持続可能なエネルギーへの転換が必要という考えから、2012年より、環境経営学会とサス

テナビリティ日本フォーラムの2つのNPOと協働で、2030年までに持続可能な島へのビジョン策定をスタートしました。

2012年11月20日には東京大学で「地域の発展と再生可能エネルギー」というシンポジウムを開催。超少子高齢化や財政破綻の危機を乗り越えてきた秘訣や新しい価値観の見直しについて町長に語っていただき、たくさんの反響がありました。さらに海士町の先生と協働し、海士の未来の担い手である小学生、中学生、高校生の総勢273名と2030年の島の未来を描く「島の未来予想図作り」のプロジェクトを実施しました。

■島の2030年を描いた ～海士の子どもの未来予想図～

まずは、子どもたちから未来の夢を聞きだすために、七夕にちなんで色とりどりの短冊に「島」・「自然」・「暮らし」・「仕事」、そして「家族」という5つのテーマで、「2030年の海士の未来への願いごと」を託してもらいました。現在12歳の子どもなら、2030年には30歳。仕事に就き、結婚して子どもがいる人もいることでしょう。みんなの短冊には、「家の前の海でお父さん釣りをしたい」「海士町に大きな病院を建てて医者になってみんなを助けたい」「今と変わらず人と人とのつながりを大切にできる島であってほしい」…といった、さまざまな願いが寄せられました。集められた短冊からキーワードを抽出し、「島の未来予想図」を共有するために、イラストで見える化しました。未来を予測することはできませんが、バックキャスト(未来から考える手法)により、島のあるべき姿を描くことは重要です。今後はみんなのビジョンを実現するためのアクションプランも協働で策定していきます。



イラスト1 「2030年の島の未来予想図」～仕事編～

低炭素社会へ!! チャレンジ好実例を 共有した2日間

低炭素杯2013を 2月16日、17日に開催

低炭素杯2013は、2月16日(土)、17日(日)に東京ビッグサイトを会場に、のべ1300人が参加して盛大に開催されました。

全国の1371団体から選ばれたファイナリスト40団体・企業・学校が、自分たちの活動を4分間にまとめて、舞台上を発表を行いました。これからの低炭素社会の構築モデルとなる様々な活動が発表され、その中から、特色のある活動、モデル性の高い活動など、19の団体・企業・学校に下記の各賞が贈られました。

環境大臣賞(グランプリ、金賞4部門)は田中和徳環境副大臣から表彰状と副賞が贈られ、低炭素杯2013トロフィーは制作に携った福島県石川町立野木沢小学校6年生から贈られました。

今回、国際的なネットワークの礎を築くという視点から、韓国 e-idea コンテストで受賞したソウル大学イ・スンチェさんを海外特別ゲストとしてお呼びし、活動の発表が行われました。

環境大臣賞グランプリは 栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班が 2年連続の受賞

環境大臣グランプリは、栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班の「麻の郷とちぎの環境資源を次世代に」の活動が選ばれました。伝統資源と伝統産業を守り麻の郷の自然を保護する活動と、麻を用いた土壁・断熱材の開発、トウガラシなどの抽出液を使った野生動物対策用の麻縄の開発が高く評価されました。

低炭素杯トロフィー制作写真展と環境マンガ展を開催

ロビー展示企画として、トロフィー制作写真展と環境マンガ展を開催しました。

低炭素杯トロフィーは、福島県石川町の寿命が近づいた樹齢100年のモミジの提供を受け、地元の石川町立野木沢小学校の6年生と造形家・齊藤公太郎さんの協働で制作されました。子ども達も、福島第一



低炭素杯2013 表彰結果

区分	賞名	団体名
環境大臣賞	グランプリ	栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班
	金賞(地域活動部門)	京都炭素貯留運営委員会
	金賞(企業活動部門)	レモンガス株式会社
	金賞(ソーシャルビジネス部門)	鹿児島大学 Sustainable Campus Project (SCP)・JAグリーン鹿児島
	金賞(学生活動部門)	岐阜県立恵那農業高等学校
協賛・協力企業/団体賞	最優秀グローバル賞(ブリティッシュ・カウンシル)	阿南高専 再生可能エネルギー研究会
	最優秀家庭エコ活動賞(株式会社LIXIL)	エコワークス株式会社
	最優秀地域活性化賞(一般財団法人セブン-イレブン記念財団)	静岡県立富岳館高等学校・キノコ研究班
		奈良交通株式会社
	最優秀コミュニケーション賞(3団体)(株式会社オルタナ)	株式会社ナチュラルファームシティ 農園ホテル
		和賀製菓店
特別審査員賞(2団体)(日本マクドナルド株式会社)		荒川区
		大葛青若会
審査員特別賞	最優秀ソーシャルイノベーション賞	東日本旅客鉄道株式会社
		Terra Motors株式会社
		福岡市 環境局
		クールシェア事務局
		株式会社 一条工務店



原子力発電所事故による放射能被害の体験を踏まえた卒業記念トロフィーを制作しました。これら一連のトロフィー制作の様子と、子ども達一人一人の作品・メッセージを会場ロビーでパネル展示しました。

また、環境マンガ家である高月紘(ペンネーム:ハイムーン)さんを特別ゲストとしてお呼びし、環境マンガ展と作者解説をロビーで行いました。

◆ 運営の基本的考え方

本年3月末に、京都議定書の第一約束期間が終了するにもかかわらず、その後の日本の温室効果ガスの削減目標も、新しい実行計画も決定に至っていない。さらに、一昨年の3.11東日本大震災による福島原発の事故に端を発した原子力発電の政策転換、エネルギー選択肢の議論の結果もゼロベースで見直されようとしている。

こうした動向を受け、地球温暖化対策の優先順位・必要性に対する認識が揺らぎ、一方で脱原発と地球温暖化対策がトレードオフの関係で捉えられるなど、ある意味温暖化対策の将来に影を落としている。

このような状況下であっても、地域での温暖化対策の歩みをさらに進め、これからどのように創造し、どのように展開するのか、自立的に取り組んでいかなければならない。我々自身が安易に目標達成に向けた旗を降ろすのではなく、エネルギー政策の見直し(戦略的なエネルギーシフト)と温暖化対策の側面から新たな視点に立った今後の温暖化防止に向けた創造的プランの創出が、求められている。

すなわち、地球温暖化対策の優先順位・必要性の認識を向上させる手立てを構築するとともに、市民のライフスタイルの変換、その行動

変容の促進に向けて明確なメッセージの発信と取り組みが必要である。

当法人は、会員とともに構築してきたネットワーク、培ったスキルやノウハウを最大限に活用し、草の根の様々な取り組みと地域住民に向け積極的な支援を行い、さらに、各地域のセンターが相互に連携・協働することでより相乗効果を発揮していかなければならない。そのため、地球温暖化を防止し、低炭素社会の構築に向け、未来に向け確実に歩みを進めるためにも、あらゆるセクターの全員参加のもとでの“節電・節エネ・節CO2”の国民運動を起こしていくためのコアとして活動していく必要がある。

平成22年8月の創設から4年目となる平成25年度も、地域において地球温暖化防止活動を実施する団体の自治組織として、参画する団体の活動をより効果的なものとするための技術的支援等の実施など、温暖化対策推進法に規定された役割を踏まえつつ、中間支援機能をより一層果たしていき、低炭素社会実現のため民生分野の地球温暖化対策の推進を図ることとする。

◆ 法人の運営管理

- ①総会の開催 ②理事会の開催 ③運営委員会の開催

◆ 全国地球温暖化防止活動推進センター事業の推進

平成22年10月1日付けで温暖化対策推進法第25条に基づく全国地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けたことを踏まえ、その責務と役割を果たすため、次の事業を円滑かつ確に行うこととする。

①地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業の推進

- 地域センターとの連携及び支援並びに協働
- 民生部門の温室効果ガス排出実態・削減方針に係る調査・研究
- 情報の収集及び提供
- 温暖化防止活動における環境教育教材等に係る支援事業

②地域での連携事業体による

CO2排出削減促進事業に係る統括的サポート

◆ 家庭エコ診断事業の推進

①家庭エコ診断推進基盤整備事業の実施

平成24年度に受託した家庭エコ診断推進基盤整備事業の様々なノウハウ・成果を活かしつつ、地球温暖化対策に係る中長期目標の達成のため、家庭部門に対する効果ある削減の取組を速やかに普及させることが必要であり、平成25年度も環境省から本事業を受託することを前提に平成24年度に引き続き実施する。

②うちエコ診断：自治体事業サポート業務の実施

③当法人及び正会員等における家庭エコ診断の

本格的運用と持続的実施に向けた準備及び検討

平成23年度、24年度に当法人及び正会員等が連携・協働して実施した家庭エコ診断事業の成果を踏まえつつ、26年度以降の正会員等における家庭エコ診断の持続的実施に向け、体制、運用にあたって体制等、環境省受託事業を行い併せて適切な準備及び検討を行うこととする。

◆ 地域活動及び人材育成等連携・支援業務の推進

①低炭素杯2014の開催

次世代に向けた低炭素社会の構築のため、CO2削減の国民運動として、学校・家庭・NPO・企業などの多様な主体が、全国各地で展開している地球温暖化防止に関する地域活動を報告し、学びあい、連携の輪を広げる“場”を提供することを目的に民間資金及び広く協賛・寄付を得て、低炭素杯2014を開催する。

②市民の温暖化を意識した行動変容を促すための効果的な対象の選定とエンパワーメント・プログラムの開発

③出前環境教室の開催

④首都圏における3R・低炭素社会検定試験業務の実施

⑤温暖化防止に関するミニセミナー、イベントの開催

⑥平成25年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰業務の実施

◆ 普及啓発・広報の推進

普及啓発・広報展開にあたっては、「普及啓発・広報計画」を作成し、計画的に法人の情報誌、ホームページ、e-mail、新聞・TV・ラジオ等のマスメディアを通じて積極的に情報提供を行い、また国、自治体広報紙、賛助会員企業等の広報媒体も積極的に活用し、タイムリーな情報を提供していく。

◆ 賛助会員を対象にした研修会等の開催

◆ 業務運営基盤の整備

一般社団法人
地球温暖化防止全国ネット

事務所移転のお知らせ

平素は当センターの活動に格別のご理解を賜り厚く御礼申し上げます。このたび、一般社団法人地球温暖化防止全国ネットは下記事務所に移転をします。

新事務所業務開始日 平成25年4月22日(月)

新住所 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 第一アマイビル4階

※電話番号・FAX番号は変わりません(TEL:03-6273-7785 FAX:03-5280-8100)

- 都営新宿線「小川町駅」徒歩3分
- 東京メトロ丸ノ内線「淡路町駅」徒歩5分
※B7出口をご利用ください
- 千代田線「新御茶ノ水駅」徒歩5分
- JR線「神田駅」北口より 徒歩8分
- 東京メトロ銀座線「神田駅」徒歩8分
※5番出口をご利用ください



家庭エコ診断シンポジウム

～これまでの実施状況と今後の展開について～ を開催しました

環境省が推進している家庭エコ診断事業をより広く知ってもらうとともに、民間企業との連携を更に進めることを目的として、2月18日に家庭エコ診断シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、今年度の診断実施事務局（地域センターや民間企業等）による実施状況の報告を中心に、講演、ポスターセッション、そしてパネルディスカッションを実施いたしました。

今回は、150名の参加募集に対して200名近い方々にご参加いただいたことから、家庭エコ診断への関心が高いことがわかりました。

また、パネルディスカッションでは、コーディネーターとして東京工業大学の金谷年展特任教授をお招きし、「家庭エコ診断の可能性と展望」をテーマにご議論いただきました。この議論の中では、受診者-民間企業-地域や国の3者が連携し家庭エコ診断事業を進めることで、光熱費が下がる受診者、省エネ対策商材が売れる民間企業、エネルギー自給率が上がる地域や国の、3者がwin-win-winの関係になるよう、ゴールを設定していこうという共通の認識も生まれました。



▲パネルディスカッションの様子



▲ポスターセッションの様子

編集後記

2月26日から3月1日まで、中国の厦門（アモイ）市で開催されたJICAの市民参加による気候変動対策推進プロジェクトのセミナーに講師として参加しました。

セミナーでは、中国環境保健部、厦門市環境保護局、日本国環境省、全国ネット、中国人民大学、緑色出行（スマートムーブ）基金がそれぞれ講師を務め、中国各省から参加した環境部局の職員約50人が参加しました。また、講義の他、グループ討議及び発表なども行われ、有意義なセミナーとなりました。

全国ネットからは、温対法にもとづく推進員、地域センター、全国センターのしくみと具体的な活動実施例、うちエコ診断の紹介などを行いました。

今後、市民活動による地球温暖化防止対策の国際的な連携のきっかけになればと思っています。

おりしも、PM2.5の話題で持ちきりでしたが、セミナー開催中の厦門市では45 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度でした。中国から戻ってからは花粉症に悩まされています。



事業グループ 川原 博満

地球温暖化防止研修会を開催しました

1月25日（金）、大阪市内にある近畿地方環境事務所会議室にて国立環境研究所の久保田泉氏を講師にお招きし、「地球温暖化防止研修会」を開催しました。

久保田氏はCOP8から毎年この会議に参加しており、昨年末カタル・ドーハで開催されたCOP18についても現地からの生の声をJCCCAホームページにレポートを寄せ大変ご好評をいただいております。

講演ではCOPのこれまでの流れ、COP18の論点や決定事項、日本の中期目標などについてお話がありました。質疑応答の際には参加者から多くの質問や意見が寄せられ、直接専門家のお話を聴く貴重な場として大変有意義な研修会となりました。

COP18レポートはこちら

http://www.jccca.org/trend_world/conference_report/cop18/

プログラム	1. 開会	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 専務理事 菊井 順一 「気候変動枠組条約第18回締約国会議（COP18）報告」 講師：独立行政法人国立環境研究所 社会環境システム研究センター 主任研究員 久保田 泉 氏
	2. 挨拶	
	3. 講演	
	4. 質疑応答	
	5. 閉会	



エコアナウンサー

櫻田彩子の ミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール
Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。
テレビ朝日「ゆうゆう散歩」レポーターほか、
低炭素杯2013での司会など。



今年も司会を担当させて頂いた低炭素杯は、嬉しいことが花盛り。地域の皆さんの地に足のついた取り組み発表に興奮し、栃木農業高校の2連覇に喜び、団体交流会での盛り上がりにも感無量。特に今年の団体交流会での各団体の皆さんの「繋がろう!」という気持ちの強さに低炭素杯の意義を感じたのは私だけではないはずです。

そして、忘れてならないのは、福島県石川町立野木沢小学校の皆さんとチーム野木沢の大人も子供も多くの方が協力して下さって出来た、低炭素杯トロフィーです。石川町のモミジの皮を剥いで放射能を除染して製作したトロフィーは、昨年の



▲トロフィーの一步手前

石巻市立湊小学校の皆さんが作ってくれた「がれき」のトロフィーと共に、震災と低炭素社会への誓いを伝える大きな役割を持って永遠に!

賛助会員
募集中!

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの
活動をサポートしてください!
年会費：個人会員 1口 5,000円(1口以上) 団体会員 1口 20,000円(1口以上)

編集・発行

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町9-17 神田第三中央ビル5F

TEL. 03-6273-7785 FAX. 03-5280-8100 WEB. <http://www.zenkoku-net.org/>